

## 平成14年度事業報告

### 船舶関係諸基準に関する調査研究(RR)

1. IMO関係の基準案作成については、IMOの委員会又は小委員会の審議に対応して37件の日本提案文書を提出した。IMOで採択された日本提案の主な基準は次の通りである。

船舶の操縦性能についてのIMO基準は1993年にA.751(18)[操縦性暫定基準]として制定されているが、これの見直しについて平成11年度からRRの検討課題として調査研究を実施してきた。約300隻の海上試験データを収集し、これらを暫定基準と比較検討し、ジグザグ試験の一部オーバーシュート角の基準値が不合理であること、大型船の停止性能の見直しが必要なことなどをIMOに提案していたが、MSC 76(2002/12)において我が国提案を取り入れた修正案がMSC.137(76)[船舶操縦性基準]として採択された(ただし、停止性能については暫定基準のまま残された)。

「統合化された船橋システム(IBS)指針」の策定については、NAV 47(2001/07)にフィンランドが素案を提出し、我が国はこれの検証を行い、フィンランド及びスウェーデンと協力しNAV 48(2002/07)に共同提案を行っていたが、NAV 48(2002/07)で審議・合意され、MSC76(2002/12)において「統合船橋システム(IBS)の操作運用指針」として採択された。

MEPC.60(33)[機関室ビルジの汚染防止装置の指針及び性能]及びA.586(14)[油タンカーの油排出監視制御装置の指針及び性能]の基準は採択されて十数年が経過しており、MEPC 42(1998/11)において改正することになった。我が国は、油水分離器の型式承認試験については大幅な見直しの必要があることなどをバックデータを添えて改正提案を行っていたが、我が国の提案がDE 46(2003/03)で合意されMEPC 49(2003/06)で最終化されることとなった。また、我が国が新たに提案した「統合ビルジシステム(ITBS)」は各国の賛同を得てMEPCに対して新作業項目として我が国から提案することとなった。

このほか、我が国が提案していた現存船向けの浮揚式航海データ記録装置(VDR)の有効性の検証を行ない、我が国が作成する基準案をNAV 49(2003/07)に提出することとなった。一方、国内関係の基準案作成については、外観一体型ブッシャーバージシステムの検査要領案及び技術基準案を作成するとともに連結部の強度評価方法について具体的な計算方法を提示した。

2. なお、成果の公表等については、作成したIMO関係基準案の世界基準化を図るため、関連する委員会・小委員会等に延べ46人を出席させ日本提案の反映と条約基準への採用に努めた。

また、作成した基準案(作成中を含む)及びIMOでの審議状況を説明するため「基準研究成果報告会」を平成14年7月に東京と大阪で開催した(参加者総数196名)するとともに、ホームページで成果公表及び関連する情報の公開を行った。

## 1. 基準案の作成

### (1) RR-S1：海上安全に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 10 頁 ]

- ・ I M O の海上安全委員会、航行安全小委員会及び復原性満載喫水線漁船安全小委員会の議題
- ・ 審議状況を精査し、今後の検討方向を明確化した。

### (2) RR-S101：運行安全管理に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 12 頁 ]

- ・ 総会決議 A.792(19)「Safety Culture」の改正案である MSC75/WP.10 annex1 が MSC 77(03.05.)で審議されることに備え、「船長が感じるストレスとミスを犯す潜在的要因」をヒアリングにより把握した。(次年度にはこれを検証し「期待される基準案」を明らかにする。)

### (3) RR-S102：漁船安全に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 50 + 50 頁 ]

- ・ 漁船安全に関する国際動向 (1977 年の漁船のためのトレモリノス国際条約に関する 1993 年の議定書、定同書の採択、1993 年議定書の構成)
- ・ 漁船の復原性基準とその適用に関する検討 (我が国の漁船の復原性基準、復原性基準適用上の問題点)
- ・ 底引き網漁船の実態調査 (75GT 型 2 艘引きスタン揚げ漁船、45GT 型サイド揚げ漁船、30GT 型スタン揚げ漁船)
- ・ 沖合底引き網漁船に対する転覆事故防止対策の検討 (安全な操船・作業の周知啓発用パンフレット内容の検討、海難状況ヴィジュアル化プログラムの整備)

### (4) RR-S103：輸送形態の変化に対応するための基準のあり方に関する調査研究 (14 年度終了)

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 134 + 6 頁 ]

- ・ プッシャーバージの安全基準の検討 (検査・技術基準)
- ・ プッシャー独航時の安全性の検討 (独航時の模型試験、独航時の安全性の検討)
- ・ 転結部の強度評価法の検討 (プッシャーバージの連結方式、連結部に作用する荷重及び荷重の分類、外観一体型プッシャーバージの連結部の強度評価、ピン支持結合型連結部の強度評価、設計法との比較)
- ・ 離脱試験について (船主による離脱が可能であることの証明、離脱試験実施要領、離脱試験実施における問題点、過去の例に見る離脱の判断)

### (5) RR-S2：船舶の性能に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 111 頁 ]

- ・ I M O の報告 (MSC75, SLF45, MSC76)
- ・ 損傷時復原性の確率論に基づく調和 (巨大船の浸水中間段階における復原力の検討、浸水災害時の時間シミュレーション、損傷時復原性能の試算)
- ・ 非損傷時復原性基準改正に関する検討 (非損傷時復原性規則の改正方針について、パラメトリック横揺れに関する検討)

### (6) RR-S201：満載喫水線条約の見直しに関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 47 + 資料 41 頁 ]

- ・ I M O 会議の結果 (MSC75, SLF45, MSC76)
- ・ 満載喫水線条約の見直しに関する検討 (船首乾舷の見直し、ハッチカバー荷重の検討、ハッチカバー強度規定の調査)

I M O 提出文書

- 1) SLF45/4/8：日本は SLF44 でバルクキャリアのモデル試験結果を提出したが、これをふまえた提案 (一般貨物船の青波荷重はバルクよりも小さい) [ 本文 3 + 付録 4 頁 ]

- 2)SLF45/4/13：日本は船首高さ算式の見直しを行った。その結果、新しい算式は妥当であることが立証された。この文書は SLF45/4/6(66 年満載喫水線条約の改正のための独・蘭案)に関するコメント [ 本文 3 頁 ]
- 3)MSC76/12/3：1988LL 条約附属書 B 39 規則の予備浮力の修正案に対するコメント及び提案 [ 本文 3 + 付録 2 頁 ]
- 4)MSC76/12/4：1988LL 条約附属書 B 16 規則のハッチ加<sup>\*</sup>-荷重に関する提案の検証結果 [ 本文 4 頁 ]

#### ( 7 ) RR-S3：救命・通信に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 5 2 + 資料 2 1 頁 ]

- ・ IMO の動向 ( MSC75, MSC76, COMSAR7, IMO への提案 )
- ・ GMDSS の性能基準の見直しについて ( 現状調査、通信技術の動向、国際規則及び地域規則の調査、性能基準見直し )
- ・ 大型旅客船の救命設備関連の問題について ( 設備 IMO 及び ISO/TC8 等で審議されている問題、次世代救命システム、救命設備に用いられているリチウム電池について )

#### ( 8 ) RR-S4：防火に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 8 5 + 資料 8 5 頁 ]

- ・ 防火に関する IMO の動向 ( MSC75, FP47 )
  - ・ 防火に関する調査研究 ( 機関区域の消火装置の性能基準の検討、車両区域の消火装置の性能基準の検討 )
  - ・ 局所消火装置の検討 ( IMO/FP における非公式検討グループ、要件の整理及び試験方法 )
- IMO 提出文書

- 5)DSC7/8/1：部分風雨密ハッチウェイカバーを有するコンテナ船に適用する貨物コンテナの積載隔離要件に関する CG の中間作業報告 [ 本文 6 + 付録 4 頁 ]
- 6)FP47/3/1：改正された SOLAS -2 章及び水をベースとした固定式局所消火装置の承認のための指針との解釈案の提案 [ 本文 1 + 付録 3 頁 ]
- 7)FP47/8/2：水をベースとした固定式局所消火装置の承認のための指針の適用に際しての問題点の指摘 [ 本文 2 + 付録 8 頁 ]
- 8)FP47/14/1：部分風雨密ハッチカバーを装備したコンテナ船の貨物倉に装備された固定式ガス消火装置の CO<sub>2</sub> の増加量についての推奨提案 [ 本文 2 頁 ]
- 9)FP47/INF.2：FP47/3/1 の根拠となる関連情報 [ 本文 2 + 付録 2 7 頁 ]
- 10)FP47/INF.3：部分風雨密ハッチカバーを装備したコンテナ船の貨物倉に装備された固定式ガス消火装置の CO<sub>2</sub> の必然的増加量についての調査結果 [ 本文 2 + 付録 1 1 頁 ]

#### ( 9 ) RR-S401：機関区域の火災探知性能の向上に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 4 0 + 資料 6 4 頁 ]

- ・ 船舶関連データベースに関する研究 ( 機関区域内気流の調査、機関区域内火災性状の調査、機関区域用火災感知装置の性能要件の検討、機関区域用火災感知装置の試験方法の検討、機関室用火災感知装置の性能要件の検討 )

#### ( 1 0 ) RR-S402：巨大旅客船の対火災安全性に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 2 0 + 資料 1 0 頁 ]

- ・ 海上安全委員会 ( MSC75 ) への対応
  - ・ 防火小委員会 ( FP ) の通信部会への対応
  - ・ FP47 の審議結果
- IMO 提出文書

- 11)FP 47/INF.4：「新造及び既存の旅客船のための避難解析のための仮指針 ( MSC/Circ.1033 ) 」に対する事前調査研究の結果の報告 [ 本文 2 + 付録 8 頁 ]

#### ( 1 1 ) RR-S403：大型浮体構造物の防火基準に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 97 + 資料 17 頁 ]

- ・大型浮体構造物基準の国際化について ( 国内基準、SOLAS と MARPOL の関連、国際化要件 )
- ・国勢的防災・避難安全基準案の調査検討 ( I S O の火災安全評価、I M O の取り組みについて )
- ・環境影響評価に関する調査検討 ( 国内環境基準、諸外国の環境評価制度、環境影響要件、I M O への対応 )

#### ( 1 2 ) RR-S5 : 設計設備に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 8 + 資料 15 頁 ]

- ・I M O の動向と対応
- ・I M O の審議内容 ( DE45, MSC75, MSC76 )

IMO 提出文書

12)MSC 76/3/6 : MSC 76/3/1ANNEX2 で発効したアクセス設備の技術規程に関する改正に対するコメント [ 本文 3 頁 ]

#### ( 1 3 ) RR-S501 : 操縦性暫定基準の見直し ( 1 4 年度終了 )

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 71 + 資料 79 頁 ] 及び [ 成果報告書 ]

- ・停止性能推定法の検討
- ・船舶の停止性能に及ぼす主機逆転操作時間の影響
- ・外乱下におけるタンカー船型のプロペラ逆転停止性能
- ・船舶の停止性能に関する実験的検討
- ・I M O 操縦性暫定基準の活用状況調査

I M O 提出文書

13)MSC76/8/4 : 操縦性能基準の解説書付録 3 の停止性能に関する日本の見直し提案 ( 停止距離は簡単な方程式で予測できることの検証 ) [ 本文 2 + 付録 2 頁 ]

14)MSC76/INF.18 : 提案文書 MSC76/8/4 の技術的背景 [ 本文 1 + 付録 4 頁 ]

15)MSC76/WP.6 : 日本及び韓国による作業部会での巨大船の停止性能 ( MSC/Circ.644 ) 基準の改訂作業結果

#### ( 1 4 ) RR-S502 : バラスト水交換に伴う安全性に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 59 + 資料 41 頁 ]

- ・I M O における審議状況
- ・船首喫水と船首船底スラミングの関係
- ・バルクキャリアのスロッシングの問題
- ・バラスト水交換に伴う安全性の検討
- ・安全なバラスト水交換に関するマニュアルの検討

#### ( 1 5 ) RR-S6 : 航行安全に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 37 + 資料 22 頁 ]

- ・I M O への対応と審議状況 ( MSC75, NAV48, MSC76 )
- ・航海機器関連解説 ( AIS 指針, THD, 新レーダー複合格 )

#### ( 1 6 ) RR-S601 : 統合船協システム ( IBS ) に関する EU 調査研究 ( 1 4 年度終了 )

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 4 + 資料 47 頁 ] 及び「成果報告書」

- ・I B S 指針の策定の経緯 ( NAV47 におけるフィンランド提案とこれへの我が国の対応、NAV48 へフィンランド等との共同提案、NAV48 における審議及び MSC76 における採択 )

I M O 提出文書

16)NAV48/4/2 : フィンランドは NAV47 に IBS の運用と設計に関する勧告を提出した。NAV は指針を作成するためには更なる研究が必要と判断した。フィンランドはスウェーデンと日本と協力して委員会における検討のため新たに勧告書の提出をした。[ 本文 19 + 付録 1 頁 ]

### ( 1 7 ) RR-S602 : 航海データ記録装置(VDR)に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 3 7 + 資料 4 7 頁 ]

- ・ RR-S602 分科会活動の概要
- ・ I M O 審議への対応及び審議状況 ( NAV48, NAV/CG, NAV49 )
- ・ 現存貨物船用 V D R の実用性に関する調査研究 ( 性能基準の検討、浮揚式カプセルの搜索回収試験について )

I M O 提出文書

17)NAV48/8/1：現存貨物船搭載の簡易型 VDR の提案 [ 本文 2 + 付録 6 頁 ]

18)NAV48/INF.5：海難事故データを基にした船舶簡易 VDR の仕様についての研究報告 [ 本文 6 頁 ]

### ( 1 8 ) RR-S603 : 新燃料海上輸送に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 8 7 + 資料 9 2 頁 ]

- ・ IAEA 2003 年会議への対応
- ・ IMDG Code(国際海上危険物規程)強制化に伴う放射線防護計画の国内対応について - 専用船及びコンテナ船におけるモデルケースの検討

### ( 1 9 ) RR-S7 : 船舶の総合的安全評価(FSA)に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 1 0 1 + 資料 7 8 頁 ]

- ・ 安全評価手法の調査 ( FSA の適用、同等火災安全措置の評価手法、船舶海洋関係のリスクアセスメント手法、船舶 海洋以外の分野の安全評価方法 )
- ・ 船舶関連データベースに関する調査研究 ( 海難審判長裁決録、日本船舶明細、航海機器のコスト、地形データ、航跡データ )
- ・ 安全評価例 ( 衝突乗り当てに関する安全評価、機関室火災事故の安全評価、浸水転覆沈没事故に対する安全評価 )
- ・ インシデントデータの収集と活用の検討 ( ヒューマンエレメントとエラーに関連するモデル、同安全評価の手法、安全文化と経験データの共有、インシデント報告用の報告様式に関する調査、アンケートから得られたヒューマン エレメント関連結果、船社に対するヒアリング結果 )
- ・ 結び ( F S A 手法に関する調査研究、船舶関連データベースに関する調査研究、確率論的安全評価の実施、インシデントデータの収集と活用の検討 )

### ( 2 0 ) RR-S701 : 不具合情報の評価に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 1 7 + 資料 7 0 頁 ]

- ・ 重大不具合の実船計測に基づく解析と評価
- ・ 高速カブリの実船試験計測
- ・ 船用高速機関の運転実態に関するアンケート調査
- ・ 考察と提言

### ( 2 1 ) RR-S702 : バルクキャリアの安全性に関する調査研究

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 3 8 + 6 1 頁 ]

- ・ I M O の動向 ( MSC75, MSC76 )
- ・ バルクキャリアの構造安全に関する F S A
- ・ 個々の R C O に対する検討
- ・ 日本以外のバルクキャリア F S A の検証結果
- ・ F S A の方法論についての課題

I M O 提出文書

19)MSC75/5/2：日本によって行われたバルクキャリアの FSA スタディの報告 [ 本文 3 + 付録 4 1 頁 ]

20)MSC75/INF.6：日本によって行われたバルクキャリアの安全性に関する FSA スタディに使用された risk analysis の追加情報 [ 本文 2 + 付録 2 3 頁 ]

21)MSC76/3/7：MSC75 で承認されたバルクキャリアの浸水警報装置、ポンプシステムに関する

- SOLAS 条約第 章の改正案に対するコメント [ 本文 2 + 付録 2 頁 ]
- 22)MSC76/5/12 : F S A 検討結果が異なった最終要件を示す場合における意思決定過程及び計画での技術的検討方法の提案 [ 本文 3 + 付録 5 頁 ]
- 23)MSC76/5/13 : MSC75/5/1 ( 英国提案 ) 及び MSC75/5/2 に関しハッチカバー関連事故データと日本の F S A 結果との比較研究 [ 本文 2 + 付録 5 頁 ]
- 24)MSC76/5/14 : MSC74/5/5(ルウエ等の Immersion suites に対する提案)に対する検証結果[本文 2 頁]
- 25)DE46/18/2 : バルクキャリアに装備される浸水警報の性能基準に対する日本の見解及び提案[ 本文 2 頁 ]
- 26)DE46/23/2 : 「重量貨物の満載時における交互積載の禁止 ( 英国提案 ) 」に対する日本の見解 [ 本文 6 頁 ]
- 27)DE46/23/2 : 重量貨物積載制限の可能性に対する日本の見解 [ 本文 3 頁 ]
- 28)DSC7/8/1 部分風雨密ハッチウェイカバーを有するコンテナ船に適用する貨物コンテナの積載隔離要件に関する C G の中間作業報告 [ 本文 6 + 付録 4 頁 ]

## ( 2 2 ) RR-E1 : 海洋環境保護に関する調査研究

成果物の内容 : 年次報告書 [ 本文 1 3 + 資料 3 頁 ]

- ・ 船舶に関する環境問題
- ・ I M O の動向 (MEPC48)
- ・ 船舶のリサイクルに関する国際会議
- ・ 船舶の評価と差別化

## ( 2 3 ) RR-E101 : バラスト水条約に関する調査研究

成果物の内容 : 年次報告書 [ 本文 1 3 + 資料 3 2 頁 ]

- ・ I M O 審議への対応
- ・ 今後の検討課題

IMO 提案文書

- 29)MEPC48/2/16 : 「検査と証書の調和システム ( HSSC ) 」の要件導入に関するコメントと提案 [ 本文 2 + 付録 5 頁 ]

## ( 2 4 ) RR-E102 : 有機錫系防汚剤の使用規制に関する調査研究

成果物の内容 : 年次報告書 [ 本文 4 9 + 資料 8 8 頁 ]

- ・ 船底防汚塗料に関する規制状況 ( I M O の検討状況、外国における有機錫系船底防汚塗料の規制状況、我が国における有機錫系船底防汚塗料の規制状況 )
- ・ I M O 審議への対応及び審議状況
- ・ 船底防汚塗料の使用規制に関する調査研究 ( 有機錫化合物の毒性に関する情報収集と整理、船底防汚塗料の有機スズ防汚剤の現状、蛍光エックス線分析装置による実船塗膜の評価手法、実船塗膜及び市販塗料の分析 )

I M O 提出文書

- 30)MEPC48/15/3 : IACS 提案文書 ( FSI10/13/1 プラグラ 7 6 ) にある「非生物殺傷の有機スズ化合物は、条約附属書 の規制対象か否か」の疑義に関するコメント [ 本文 3 頁 ]

## ( 2 5 ) RR-E2 : 液体貨物の安全輸送に関する調査研究

成果物の内容 : 年次報告書 [ 本文 5 1 + 資料 5 5 頁 ]

- ・ I M O の審議及び対応 (BLG7, MEPC48, ESPH8, BLG8)
- ・ ハザードプロファイルの見直し及び分類方式による汚染分類変更調査
- ・ 分類方式によるケミカルタンカーの船型への影響推定
- ・ IBC Code の輸送要件基準の明確化
- ・ 海査第 407 号の改訂準備

I M O 提出文書

- 31)BLG7/6/4：ESPH7 において作成された船型要件基準改正案を試適用した結果の解析 [ 本文 15 頁 ]
- 32)MEPC48/9/4：汚染分類システム及び船型要件基準に関するコメント（3 分類方式及び船型要件の大幅な変更に対する反論）[ 本文 4 + 付録 2 頁 ]

#### **( 2 6 ) RR-E201：油排出管理機器に関する調査研究（14 年度終了）**

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 3 5 + 資料 1 3 頁 ] 及び [ 成果報告書 ]

- ・ I M O における検討経緯（MEPC47, DE45）
  - ・ MEPC60(33)（機関室ビルジの汚染防止機器の指針及び仕様）見直しに関する検討（本船ビルジ採取及び分析結果、試験水 C の攪拌混合方式の調査）
  - ・ D E 46 への対応（MEPC60(33)関係、A586(14)関係、統合ビルジ処理システム (IBTS) 関係、ビルジ警報装置の改ざん防止のためのシール関係）
- I M O 提出文書

33)DE46/4/3：15 ppm ビルジセパレータの型式承認のための試験水仕様と試験手順 [ 本文 3 + 付録 4 頁 ]

34)DE46/4/4：統合ビルジ処理システム (IBTS) に関する日本提案 [ 本文 3 + 付録 4 頁 ]

#### **( 2 7 ) RR-E202：油の仮想流出量算定に関する調査研究**

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 1 1 + 資料 3 5 頁 ]

- ・ ばら積み液体・ガス小委員会 ( B L G 7 ) への対応
- ・ B L G 8 への対応

I M O 提出文書

35)BLG7/3/2：BLG6 で検討された仮想油流出パラメータの判定基準と算出方法の検証結果 [ 本文 2 + 付録 2 頁 ]

#### **( 2 8 ) RR-E3：船舶からの大気汚染防止に関する調査研究**

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 1 7 + 資料 2 8 頁 ]

- ・ I M O の審議（MEPC47, MEPC48）
- ・ 我が国の対応（MEPC48, MEPC49）
- ・ 温室効果ガス インデックスについて

#### **( 2 9 ) RR-E301：NO<sub>x</sub> 技術規則に関する調査研究**

成果物の内容：年次報告書 [ 本文 9 8 + 資料 5 2 頁 ]

- ・ I M O における検討結果 (DE45, DE46, CG 報告)
- ・ 全体計画とスケジュール
- ・ 試験船の選択
- ・ センサーの選択
- ・ 試験経過と経験した主な不具合
- ・ 燃料中の窒素分の NO<sub>x</sub> 転換率
- ・ 考察と提言（I M O、ISO/CIMAC）

I M O 提出文書

36)DE46/3/1：船上での NO<sub>x</sub> モニタリングの測定モードと許容差に関する提案 [ 本文 2 + 付録 1 頁 ]

37)DE46/INF.5：日本での実船における NO<sub>x</sub> 測定及びモニタリング試験に関する中間報告 [ 本文 6 頁 ]

## **2 . 基準案の公表等**

### **( 1 ) 基準案作成のための企画・調整**

基準委員会（委員長：山名俊茂）を 5 月 10 日（第 5 7 回）、5 月 22 日（第 5 8 回；書面審議）、7 月 1 日（第 5 9 回；書面審議）、10 月 2 日（第 6 0 回）、3 月 12 ~ 27 日（第 6 回；持ち回り審議）に開催して、RR 部会及び分科会等の検討課題、委員構成、委員長交代などについて審議し、承認した。

## (2) 成果報告会の開催

基準研究の成果の公表のため成果報告会を開催した。

### a. 開催場所及び開催日

(東京会場) 日本財団ビル(東京都港区) 平成14年7月19日1300-1700

(大阪会場) KKRホテル大阪(大阪市中央区) 平成14年7月24日1300-1650

### b. 演題及び報告者

最近の国際動向と今後の安全・環境行政  
大臣会合とクオリティ・シッピング  
国内規制の動向について  
操縦性能向上による事故防止  
ばら積み貨物船の安全対策に関する検討  
船橋機器の近代化と航行安全

### c. 参加者

(東京会場): 147名(講師、来賓、主催者を除く)

(大阪会場): 49名(同上)

## (3) ホームページでの情報提供

- 1) 基準研究成果の報告(～14年度)
- 2) 基準委員会の概要(～第60回)
- 3) IMO委員会・小委員会の開催状況(～2003.12)
- 4) IMO委員会・小委員会の議題と提出資料の概要(～MSC76)
- 5) IMO総会決議一覧(～21回総会、新規)
- 6) 改正された条約・強制規定(～MSC75、新規)
- 7) 略語集(新規)
- 8) 技術資料(新規)

## (4) 国際会議への出席

会議名	開催月日	出席者(*5)
第10回旗国小委員会(FSI 10)	04/08-12	1(1)
第75回海上安全小委員会(MSC 75)	05/15-24	5(3)
第11回ポートステートコントロール会議(PSCC 11)	06/07-13	1(1)
第7回液体貨物及びガス小委員会(BLG 7)	06/24-28	3(1)
第48回航行安全小委員会(NAV 48)	07/08-12	3(1)
第45回復原性・満載喫水線・漁船安全小委員会(SLF 45)	07/22-26	4(2)
MSC 中間会合	09/09-13	3(2)
第7回危険物・固体貨物・コンテナ小委員会(DSC 7)	09/23-27	1(1)
第48回海洋環境保護委員会(MEPC 48)	10/07-11	4(3)
日韓会議(*1)	10/28-30	1(1)
ESPH(*2)	11/04-08	1(0)
第76回海上安全委員会(MSC 76)(*3)	12/02-13	5(3)
第7回無線通信捜索救助小委員会(COMSAR 7)	01/13-17	1(1)
第47回防火小委員会(FP 47)	02/10-14	3(1)
第46回設計設備小委員会(DE 46)	03/10-19	4(2)
IS Code(*4)	03/20-22	2(1)
第12回ポートステートコントロール会議 PSCC 12	03/21-27	1(1)
第8回液体貨物及びガス小委員会(BLG 8)	03/24-28	3(1)
		46(26)

(\*1): 日韓航路の船舶に対する SOLAS 条約及び LL 条約の安全基準と検査の統一的解釈のための定期的打合せ

(\*2): BLG の作業部会(化学薬品の安全性評価等)

- (\*3): SOLAS 条約締結国会議を含む
- (\*4): 非損傷時の復原性能規則に関する中間会合
- (\*5): ( ) 内の数字は造研職員で内数